

会 議 録

内容承認		公開・非公開 の別	〈開催日〉 令和8年3月2日（月） 〈時 間〉 10:00～11:40 〈場 所〉 職員会館 2階大会議室	〈傍聴者〉 1名 〈傍聴室〉 職員会館 2階大会議室
吉田会長	泉委員			
承認	承認	公開		

〈名称〉 令和7年度第2回岸和田市環境審議会

〈出席者〉 委員20名中14名（○は出席、×は欠席）

赤坂	池田	井阪	泉	井出	梅崎	江種	川瀬	嶋寺	清水
○	×	○	○	×	○	×	×	○	○
鍋島	林	原(宗)	原(祐)	平野	松井	山田	山本	横川	吉田
×	○	○	○	×	○	○	○	○	○

（事務局）環 境 保 全 課：重田課長、北川参事、亀田主幹、前田主任、杉本担当員
 廃棄物対策課：宅田課長

〈報告〉

- （1）事業の進捗状況について
- （2）令和8年度の予定について
- （3）その他

〈会議内容〉

1. 開会

- ・市長挨拶（代読）
- ・嶋寺委員 委嘱状交付
- ・会議録の確認について、会長が泉委員を指名。

【会長】

次第に従い進める。事業の進捗状況について、事務局より報告されたい。

2. 報告

（1）事業の進捗状況について

①岸和田市環境計画の進捗状況（令和6年度環境白書）について

（【資料1】岸和田市環境計画進捗状況【資料2】令和7年度版（令和6年度実績）環境白書）

現行の岸和田市環境計画の進捗状況について報告する。

岸和田市環境計画に基づいて環境施策を推進、実施した環境施策の状況についての報告書が「【資料2】令和7年度版（令和6年度実績）環境白書」である。今回は環境白書の中から、環境計画の指標となる部分を抜粋した「【資料1】岸和田市環境計画進捗状況」を用いて説明する。

表の左から、環境計画がめざす方向、4つの基本目標、基本目標実現のための取組の柱、取組の方針が記載されている。基本目標に沿った形で指標を設定しており、全体的な傾向として、各数値とも例年と大きな変動はない。

1つ目の基本目標「生物多様性に配慮し、人と自然との共生を図る」の取組の柱として「生物多様性の保全」があり、阪南2区の人工干潟で確認された生きものの数を環境指標としているが、令和6年度は合計358種と、年度ごとに数に変動はあるものの、特段の変化はない。

同目標、取組の柱の2つ目、「自然資源の利用促進」において環境指標としている、市民一人あたりの都市公園面積、施設緑地面積について、指標の目安を達成している。里山保全活動数について、各活動団体による神於山の保全活動の延べ人数となっており、令和6年度は2,849人であった。

続いて、基本目標の2つ目、「健康で安全に暮らせる潤いある環境を形成する」では、取組の柱として「生活環境の保全」、「快適で美しいまちづくりの推進」、「健全な水環境・水循環の創出」の3つがある。環境指標としている大気や水質等の環境基準の達成状況や、生活排水適正処理割合を環境指標としているが、おおむね現状を維持している。

次に、基本目標の3つ目、「持続可能な循環型社会を形成する」について、取組の柱「低炭素な暮らしや事業活動の推進」では、市民一人当たりの年間温室効果ガス排出量を指標としているが、最新の令和4年度実績で4.5t-CO₂であり、前年度からは増えているが、長期的には減少傾向にある。令和4年度に排出量が増えた要因として、コロナ禍からウィズコロナ、アフターコロナと社会情勢が変わり、人々の活動が戻ってきたことに由来するものと考えられる。

また、同目標の取組の柱の2つ目、「減量化・再使用・再資源・適正処理の推進」において掲げている、市民1人1日あたりの一般家庭普通ごみの排出量、事業系ごみの年間排出量について、減少傾向にあり指標の目安を達成しているが、一方でリサイクル率は指標の目安を達成できていない。

最後に、基本目標の4つ目、「環境を大切にした価値観の醸成と活動を促進する」の取組の柱「環境に関する情報の公開・提供の推進」、「地域の環境保全活動・環境教育・環境学習の促進」では、地域の環境保全活動数を指標としており、令和6年度は950人であった。主に河川清掃活動に従事された方々の延べ人数であるが、護岸工事の進展により河川内に侵入することが困難になってきており、河川の一斉清掃自体を中止したことが影響し、前年度よりも人数が大きく減っている。

【会長】

1つ目の基本目標「生物多様性に配慮し、人と自然との共生を図る」の、環境指標「人工海浜で確認された生きものの数」のところで、例えば魚類や鳥類は増えている一方で、昆虫類・クモ類は減少傾向にあり、種によって差がある。良い方向に行っているのか悪い方向に行っているのか分かりづらいが、どのように考えたらよいか。

【事務局】

本市でも自然資料館が中心となり、20年ぐらいい人工海浜で生物の採集を行っている。昔は岸和田の海にクルマエビやシャコなどの甲殻類が多く見られたが、近年減少している。一方で、特にこの阪南2区の人工干潟で見られる傾向だが、ウミナという巻き貝が4、5年前までは少なかったが、今は5月から7月にかけて砂浜に大量にいるという変化が見られる。

良い方向であるか否かは、本審議会の鍋島委員をはじめ、専門の方にご教示いただいている中で、一言では言いにくいところであり、海の環境の変化により、少なくなる生物もいれば増える生物もいる。現在、海全体の汚れは減っているが、栄養分が海の底に溜まってしまい、魚が十分に栄養を得ら

れないことや、海水中の酸素が少なくなり生物が生きづらくなる貧酸素という状況にある。昔は下水道整備が不十分なことによる海の汚れで、生物に悪影響であると言われていたが、最近は汚れが減ったことで生物が生きるのに必要な、適度なリンや窒素がないがために、逆に生物が生きにくくなっており、メカニズムとしては非常に難解である。一概に良くなっているとはお答えしにくく、生物の生息環境がここ数年、数十年、どのサイクルで見ても変わりつつあるというところである。

【会長】

変化をしっかりと見ていきたい。

【委員】

「環境基準達成状況」の「騒音」の「一般地域」のところで、令和4年度と令和5年度の2年間は達成していたが、令和6年度は達成していない。何が原因か。

【事務局】

環境基準の一般地域の測定地点は全部で12箇所ある。毎年全12地点の測定はしておらず、4地点ずつ3年間のローリングで実施している。令和6年度の測定地点は、令和3年度の測定地点と同じ地点であり、令和4年度と令和5年度とは異なる。令和6年度の測定地点は並松町であり、同じ測定地点の令和3年度も環境基準を超過している。

【会長】

環境基準超過の理由は何か。

【事務局】

推測だが、大阪臨海線の交通量が多いため、車の走行音の影響を受けていると思われる。道路の端から50m以上離れた場所で測定しているが、夜間の測定のためどうしても影響を受けてしまうと考えている。

【会長】

一般地域の測定地点を交通量の影響を受ける場所とするのは問題があるのではないか。

【事務局】

問題があると認識している。ただ、平成27年度、平成30年度の並松町での測定値は基準値内であった。基準値内の地点の変更はしやすいが、基準値超過の地点を見直すことは意図的な変更と捉えかねられず、変更しづらいところがある。この地点で基準値内となるべきと考え、継続して測定したい。

【委員】

「持続可能な循環型社会を形成する」のリサイクル率について、リサイクルが絶対ではなく、リユースやリデュースという形で環境に優しい方法を考えていけばよいと理解はしているが、リサイクル率が年々減っている理由は何か。

【事務局】

目標を達成していないことをまずお詫び申し上げます。

リサイクルとリユースの直近の取組について、リサイクルは小型家電の回収ボックスの設置とコンタクトレンズのケース回収を新たに実施している。リユースは岸和田カンカンベイサイドモールにジモティースポット（不要になった品物を地域のコミュニティ内で譲り合うサービス）を開設している。西日本で一番初めに設置したのが岸和田市である。

このような取組をする中で数字が下がるということは、検証が十分でないと言える。私の肌感覚と

有識者に伺ったところでは、リサイクル率の取り方には非常に難しさを感じている。ジモティースポットに持ち込まれる不用品を有価物と捉えると、一切リサイクル率に反映されない。例えば、ジモティースポットに100持ち込まれた場合、これまではごみとして扱われていたものなので、このうち10がリサイクルされれば、100分の10でリサイクル率10%となっていたが、この100がジモティースポットに直接持ち込まれた場合はごみとは扱われないため、分子も分母も0になってしまう。よってリサイクル、リユースは進んでいるにも関わらず10%が0%になるという数字のマジックが起こる。ただ、他市の状況を把握していない中で、他市のリサイクル率は上がっているのと言われると、今の理由も通用しない。数値の検証ができていないため、リサイクル率の取り方を国の基準も含めて検証したい。目標を達成していないことを繰り返しお詫び申し上げます。

【委員】

大型スーパーマーケットにリサイクルボックスがたくさん設置されているが、それでもまだ設置のないスーパーマーケットがある。電池などのリサイクルボックスをもう少し増やしていただければありがたい。企業の話なので市が関知するのは難しいのか。

【事務局】

すでにご協力いただいている店舗もある。委員のおっしゃるとおり、事業活動のため制限はあり、企業の承諾があって初めて進む話だが、働きかけは行いたい。

ただその場合、先ほど申し上げたとおり、リサイクル率が下がる可能性がある。岸和田市のフィルターを通らずごみとして扱われないため、0分の0となりリサイクル率に反映されず、場合によっては数字の取り方を考えねばならないということを繰り返し申し上げます。

【会長】

現状を説明いただき、概要はお分かりいただけたかと思う。実際は必ずしもこの数値どおりではないということも承った。

難しい問題だが、これはどの分野においても時代の変化に伴って発生する問題である。リサイクル率を見える化していくために、指標がどのように変わり、定義が実態と剥離しているために、数値が見かけ上減ってきているように見えるということ、またの機会に説明いただき、議論できればと思う。

【委員】

「環境を大切にした価値観の醸成と活動を促進する」の「地域の環境保全活動数」の「毎年、増加を目指します」について、令和6年度は前年度より半減し950人となっており、理由が一斉の清掃活動を停止したとのことだが、どういうことか。町会の役員をしており、年2回ぐらい津田川清掃などに参加しているが、津田川清掃や町会の清掃活動、市民協主催の清掃活動はカウントしないのか。カウントされていなければ半減も当然あり得ると思う。

【事務局】

この環境計画ができた時に、春木川と津田川の一斉清掃の活動数だけを環境保全活動数として取り上げることとしており、各町会の活動数はカウントしていない。しかし、この指標の扱いを課題認識している。

【委員】

私自身、町会の公園の清掃活動など月一回ある。小さな活動を入れたら1000人、2000人でも足りないのではないかと。今後も春木川と津田川の一斉清掃の活動数のみ取り上げるのか。

【事務局】

後ほど環境計画について説明するが、この指標については改めるべきと考えている。環境保全活動は非常に多岐にわたるため、タイトルと中身が見合っていないと認識している。

【会長】

次期の環境計画に反映できればと思う。

【委員】

1点目に、生物の生息の変化について、貧栄養化という話も出てきたが、海辺の栄養塩を豊かにする取組は具体的にされたのか。よくニュースになるのが、養鶏場の鳥の糞を浜辺に撒いて栄養塩を還元し、そこで貝をたくさん育てて再生していく取組だが、何か具体的な政策があれば教えてほしい。

2点目に、先ほど話があった「環境を大切にしたい価値観の醸成と活動を促進する」の「地域の環境保全活動数」の「毎年、増加を目指します」について、次期計画に反映させるには、活動の数が増えたか減ったかだけではなく、人々の関わり方に変化があったのか、あるいは活動そのものが少しずつ段階を追って発展したのかなど、そのあたりの兆しというのもしっかりとキャッチしなければ、次の取組の指標としてどのようなものを新たに策定すべきかという示唆が得られないと思う。そういう変化の兆しがあれば教えてほしい。

【事務局】

1点目の、海の富栄養化と海水部分の貧酸素化について、岸和田市としてあまり大きなアクションはできていない。ただ、大阪府域と兵庫県の自治体や企業が集まってMOBAリンクという大阪湾を良くしていこうという取組を行っており、その中で海底耕耘（かいていこううん）、海の底を耕す活動が徐々に進められていると聞いている。先日鍋島委員に教えていただいたところだが、海底に溜まった沈殿物は、一昔前は汚れとされていたが、現在は魚に必要な栄養分が含まれることがわかり、海底耕耘には、それをかき上げることで海水に栄養を行き渡らせ、固まってしまう海底をほぐす作用がある。

2点目の、「地域の環境保全活動数」について、委員のご指摘通り、単なる数遊びにならないようにどうすべきか非常に悩んでいるところである。町会の活動も認識している一方で、活動人数を把握するととなると町会長のみなさまへの負担が懸念されるため、慎重に検討したい。

変化の兆しについて、環境部門に直接関わる者としては、大きく変化していると感じてしまいがちである。しかし、客観的に見た場合に本当にそうであるか常に疑問を持っている。

ただ、パンダバンブープロジェクトの竹の利活用に関わる人が確実に増加していること、様々な地域で里山保全活動が行われ常に新たな参加者が出ていること、阪南2区の人工干潟で年3回行われる海の観察会には4～5倍の競争率で申込みがあることなどから、今の指標の中では断言しにくいですが、悪い状況にはないと考えている。

【会長】

難しい問題である。委員のご指摘通り、環境保全活動という従来イメージしていた関わり方が、そもそもその媒体も含めて変化し、社会全体が環境保全型に変わってきているという部分もあり、情報媒体や、私たちが情報を得る手段も変わってきており、使う道具も車も変わってきており、電気自動車に乗ることが当たり前になってきたら、それは環境保全活動なのかどうなのかということもあろうかと思う。一方で、従来の自然などの環境保全活動を担ってきた担い手の方々、またそういうものを構成している組織の担い手の方々が、様々な要因で大変になってきているなど、地域自体をしっかりと

構築、維持していくことが環境保全につながる場合もあり、重層的に考えなければならない。指標の見直しだけにかかわらず難しい問題である。

【委員】

「環境を大切にした価値観の醸成と活動を促進する」の「地域の環境保全活動・環境教育・環境学習の促進」のところで、私が住んでいる校区の中学校の生徒会が、不要になった子ども服を集めて、公民館まつりなどで必要な方に提供する活動をしている。そのあたりの環境教育と言うと、学校教育ではごみ処理施設の見学に行くなど様々あると思うが、生徒会活動や教育活動による環境教育の取組内容や効果についてのアンケートをとってはいかがか。今後岸和田市で大人になる子どもたちの意識改革に少しでも効果があるのではないかと思う。リサイクルにもつながると思う。

【事務局】

環境保全課として個別イベントのアンケートは取っていないが、実際にどの程度伝わっているかという把握は非常に重要と考えている。

環境教育は、「学校教育」、「家庭教育」、「社会教育」の3つのステージで進めていく必要があると思う。特に子どもたちに対しては、学校教育を非常に重要視している。

かなり前から、環境保全課では新任の小中学校の先生方に研修を行っている。以前は神於山保全くらぶによる、里山を知り山になじみを持つという内容であったが、昨年度から地球温暖化対策など幅広い内容の講義を加えた。新しい先生方に、「今から新しい行動をしてください。子どもたちに何を伝えるか、今話し合って決めてください。」と伝え、半年後にそれができたかフィードバックのためのアンケートを取っている。いかに子どもたちに伝えるか、どういう内容であればよいか、やり方も考えてもらっている。子どもたちに身近なのはやはりごみの問題であるが、それにとどまらず、もっと広い範囲の、例えば生物多様性について、「子どもたちは動物に対して興味があるが、特定外来生物の存在をどのように伝えればいいのか考えてください。それを実践してください。」と伝えている。ここには非常に注力しており、学校の中での環境教育につながればと取組んでいる。

②岸和田市環境計画の改定について

（【資料3】その他報告案件）

岸和田市環境計画の改定について、資料3に沿って説明する。

今年度、環境計画を改定して書面を作ると同時に、動画の作成もしていることは、前回の審議会でも説明した。本来であればこの審議会で見えていただき、ご意見をいただく予定であったが、間に合わなかった。令和8年度中になるべく早く策定したいと考えている。遅れた要因は、今年度予定外の業務が相次ぎ、パブリックコメントなどのスケジュールを間に合わせるができなかったという事情である。私どもの至らぬところであり申し訳なく思う。

書面の環境計画については、書面開催となるかもしれないが、委員のみなさまに案をご覧いただきご意見をいただくとともに、市民へのパブリックコメントを行い、策定という流れで進める。

動画版については、環境計画の中身を知っていただくために、動画でアピールしてはどうかという本審議会の委員からのご提案により作成しているところである。動画作成にあたり、いくつかの事業者に伺ったところ、予算や技術的な面で非常に制約があり、なんとか株式会社テレビ岸和田（以下「テレビ岸和田」）に受けていただいた。すでに制作に入っており、映像部分は完成間近で、それが完成次第、音声や効果音を加えるところまで来ている。子どもに見てもらうことを前提として、子どもに響

く内容となるよう脚本家と相談し、親子で視聴していただくことをイメージし、メインターゲットを親子としている。難しい内容が続くのではなく、子どもを惹きつける部分が必要と考え、構成を工夫し、子どもたちが好きなヒーローアクションを取り入れた。ヒロインも登場する。環境計画の中身というより、岸和田市の様々な自然環境、社会環境を題材にした啓発動画として仕上げる方向で、岸和田市の様々な場所や関係者が登場している。岸和田市長と吉田会長の共演もある。子どもたちの興味が向く悪者との戦闘シーンは楽しめる状態で残しておき、それ以外の部分で環境について訴えかけていく構成で、大体1話が2～3分、長いもので4分ぐらいの短い話が全14話という構成を想定している。完成後はテレビ岸和田で繰り返し放送するほか、YouTubeでの配信や、これはまだ希望の話ではあるが、上映会ができればとテレビ岸和田と話しているところである。

動画を先に発信し、書面完成後は動画を併せて使いながら環境計画の周知に尽くしたい。

【会長】

環境計画については、策定すると次の見直しまで期間が空いてしまうため、遅れたことによりできた時間を逆に活かし、先ほど話に出た指標のことも含め丁寧に見ていけたらと思う。

③環境影響評価専門委員会関係について

（【資料3】その他報告案件）

引き続き資料3に沿って説明する。（仮称）忠岡地域エネルギーセンター等整備・運営事業について、忠岡町に建設される一般廃棄物と産業廃棄物の処理施設建設の計画があがったため、影響を受けらるであろう岸和田市においても環境影響評価専門委員会を立ち上げた。本審議会委員から、吉田会長、江種副会長、松井委員、山本委員、嶋寺委員の5名の先生方に委員としてご審議いただいた。既に答申もいただき、岸和田市長の意見を大阪府に提出し、令和8年2月25日に大阪府知事の意見も公表されたという状況である。本市の委員からは22項目に及ぶ様々なご指摘、ご意見をいただいた。

大阪府知事の意見には、岸和田市と同内容のものが非常に多く盛り込まれており、本市の意見が大阪府に十分に伝わっている印象を受けた。

岸和田市長の意見として一番に掲げたのは、地域住民から理解が得られる取組を進めることである。そして、一般廃棄物と産業廃棄物を混ぜて処理するので、どの廃棄物がどれぐらい増減したか、もっと減らさなければならないという情報が見えにくくなる可能性があるため、そのようなことのないよう市民に情報開示するよう指摘もした。また、海に近い場所のため、津波対策を十分に行うこと、煙突の高さについては、和泉エネルギープラザと同じでよいと主張がされているが、そもそも場所が違い条件が異なるため、建設地における十分な検証が必要であると指摘した。これらを含む22項目の岸和田市長の意見、それがコンパクトにまとめられた大阪府知事意見は、大阪府のホームページで閲覧可能のためご覧いただきたい。（仮称）忠岡地域エネルギーセンター等整備・運営事業については一旦対応が終わり、次の対応を待つ。

今現在、岸和田市環境評価専門委員会として対応すべき案件は、この（仮称）忠岡地域エネルギーセンター等整備・運営事業と、（仮称）阪南港北部公有水面埋立事業（木材町の貯木場の埋立）についての2件である。

【委員】

住民の了解について、忠岡町の住民のことか、それとも岸和田市や泉大津市など影響のあるところの住民のことか。

【事務局】

住民の了解というよりも理解という形で意見が述べられており、地域住民としているため、忠岡町、岸和田市ほか、その影響の及び範囲の地域住民と受け止めている。

【委員】

みなさん努力してリサイクルなど様々なことで環境をよくしてきていると思うが、忠岡町の産業廃棄物で壊されていくことをものすごく心配している。忠岡町の一般廃棄物はおよそ 15t と聞いているが、それを岸和田市貝塚市クリーンセンター（以下「岸貝クリーンセンター」）で受け入れることはできないのか。

【事務局】

本来私がお答えすべき立場にはなく、聞き及んでいる範囲だが、岸貝クリーンセンターの建設は、岸和田市、貝塚市の地域住民との合意形成で、忠岡町のごみを受け入れないことを前提としており、再協議は難しい。

【会長】

岸貝クリーンセンターに限らず忠岡町の周辺市町村も含めて、小さい施設はどうしても効率が悪く、費用対効果的にも難しい。様々な検討の中で、この制度設計、計画で、広域で一般廃棄物进行处理することが大きな流れである一方、環境に影響がない範囲であれば、新たに作るより既存の廃棄物処理施設を活用することもあり得るが、そうはいかず今回のような計画になっている。岸和田市の施設ではないので言い難いところはあるが、そうした背景も踏まえて考えねばならない問題と承っている。関係市町村としてどうしていけばよいか、改めて岸和田市の廃棄物処理や資源循環のあり方を考えるという意味では、非常に貴重な機会である。まずは環境影響がないよう、少しでも軽減できるよう、これからも議論を尽くしていきたい。

（2）令和8年度の予定について

【資料3】その他報告案件

令和8年度の予定の前に、令和7年度の実績について説明する。

資料3「④その他」に、令和7年度の主な実績を挙げている。

「公共施設のEV充電設備の設置」について、今年度中に協議調整が整わず来年度に順延となったが、岸和田市公共施設のEV充電設備の設置について、事業者に情報が伝わっているようで、いくつかの事業者が関心を持って問合せくださる状況にあり、順延になったことにより比較的有効な競争が行えると考える。

「神於山保全活用推進協議会の体制強化」について、環境保全課が事務局として携わり、協議会設置以来最大の協議会規約の改正を行い、会員の二層化や、より合理的で意思決定の早い活動ができるよう改めた。

「全国豊かな海づくり大会イベント開催」について、環境保全課が開催支援を行い、今年の本開催の予行として、神於山から南海浪切ホールまで歩くイベント「春木川WALK」を行った。悪天候により参加者が少なかったのが残念であった。

「自然資料館との連携強化」について、岸和田市は海に関する自然環境への取組が非常に手薄だったため、数年前から環境保全課が事務方として自然資料館と協力し、年3回の観察会や毎月行われている生物のモニタリング調査など様々な活動に携わっている。

「環境フェア廃止、岸和田市貝塚市クリーンセンター3Rフェアの参画に切替」について、以前の審議会で、イベントの開催が小規模になりがちで啓発効果が見込めないため、多様なやり方をさせていただきたい旨をご了承いただいたところである。岸貝クリーンセンターで行われている3Rフェアは約600人の来場があるため、今年度はそこで電気自動車の普及啓発イベントを開催した。

「市有施設脱炭素に関する協議が活性化」について、本市の各管理部門で環境の取組を進めなければならない、各部署に働きかけを行っているところである。数年前は、脱炭素といえば環境保全課の仕事という認識で主体性に欠けていたが、特に今年度は、今後建設する予定の施設や建設して間もない施設について、抜本的な脱炭素化をしないと具体的な相談があり、各施設の主体的なカーボンニュートラルに向けた検討、取組が行われている。

これより令和8年度の予定について。

「岸和田市環境計画改定（順延）」について、書面の改定を令和8年度に順延、なるべく早い段階で策定したい。

「公共施設のEV充電設備の設置（順延）」について、令和7年度中にまとめることができず、令和8年度中の設置に向けて動く。

「特定外来生物対策」について、まずクビアカツヤカミキリだが、令和6年度は和泉市側から来る傾向にあったが、令和7年度は貝塚市側から来ている。岸和田市内の様々な場所にポイントで発生している状況で、市域全体に広がってきている。この状況を踏まえ、岸和田市の公園の部門に駆除のために動いてもらうよう様々な働きかけをし、実際に現場で行っているが、職員数が足りない。公園が何百とある中で担当職員は2人しかおらず、委託業務をするにも設計書作成の余力がないというのが実情である。そこで環境保全課が、公共施設向けではあるが、農業にあたる薬を一括調達し、関係部署に配布することにした。あとはその薬の対象となる場所での施薬作業を発注するだけである。環境保全課では、関係部署が駆除するための業務支援を令和8年度に行うべく予算を調整している。

もう1点、アルゼンチンアリという特定外来生物のアリについてであるが、非常にデリケートな問題のため、資料の中にあえて記載していない。アルゼンチンアリは、世界の侵略的外来種のワースト100と日本の侵略的外来種のワースト100のどちらにも選ばれている。非常に嫌われている特定外来生物で、*国内で地域根絶の事例はなく、生息地を狭めたにとどまる。大阪府内では北摂地域で1箇所発生していると把握しているが、岸和田市でも発生している事実を確認した。農業害虫でもありながら、人の家にも入り込む不快害虫でもある。布団の中にも入り込み睡眠妨害するため、世界的に非常に嫌われている。住民生活に影響を及ぼし地価が下落した事例もある。そのようなこともあり発生場所は現段階では伏せるが、予算が確保でき次第、町会長に説明し、対策をしたいと考えている。かなり重点的な駆除に着手する予定である。

アルゼンチンアリは、普通のアリと大きさはよく似ているが、少し茶色で手足が長く、動きがとても速い。比較的特定はしやすいが、似たアリもいるため専門家の知見も必要である。対策にあたり、アルゼンチンアリの駆除について詳しい専門家に助言をいただきながら、委託業務として実施する予定である。

(*会議終了後、国内での地域根絶の事例が2件あることが判明したため訂正いたします。)

「11/15 豊かな海づくり大会の開催」について、山から海を象徴するイベントとして今年度「春木川WALK」を開催したが、その本番を今年の11月15日に開催する。岸和田市として非常に力を入れているイベントである。委員のみならず皆様にもご参加、ご支援いただけるとありがたい。

「環境アセスメント2件の対応見込」について、(仮称)忠岡地域エネルギーセンター等整備・運営事業、(仮称)阪南港北部公有水面埋立事業の2件について、おそらく今年度、次の段階の対応が必要となるため、専門委員会の先生方にご審議いただくことになろうかと思う。

【委員】

公共施設のEV充電設備について、先ほど事務局より事業者が関心を持っていると説明があったが、私も10年前からEVに乗っているため、関心が増えていることは分かる。しかし、岸和田市内の90kWの充電設備は1箇所のみと思う。大抵は40kWの45kWの充電設備で、短時間では充電はさほどできない。

そよら東岸和田の充電設備は、以前は1回の充電が300円であったが、今年から1,500円となった。5倍は高すぎると感じる。理由を問い合わせたところ、EV普及のため安価に設定していたが、かなり普及してきたため現在の価格に変更したとのことであった。

充電設備を増やさねばならないが、市ではどのような設置を考えているのか。以前10kWの普通充電が主となると聞いたが、急速充電は価格が高いので難しいか。10年EVに乗っているが、充電設備がそれほど普及していると感じない。

また、環境によいというメリットは、コマーシャルなどで目にするのが多く周知されているが、デメリットも伝えるべきである。現在、ガソリンより電気の方が高いのではないか。家に充電設備があれば問題ないが、外の充電設備を利用する場合はかなり負担がある。途中で電欠しそうになることも多々ある。このあたりのデメリットを岸和田市はどのように解決していくのか。

観光目的の方にとっても、岸和田城の二の丸広場に充電設備があればよいのと思う。ディーラーか岸和田カンカンベイサイドモールまで行くしかない。私もよく旅行するが、他府県にはワット数の大きい充電設備が多い。岸和田市もそうなればありがたい。

【事務局】

本市の公共施設へのEV充電設備設置については、今のところ給電電力6kWの普通充電設備を6箇所と考えている。急速充電は事業者の採算が取れなくなり、撤退となることが懸念されるため設置すべきではないと考える。継続できるならば設置してもよいが、行政としての本来の設置目的が、地域住民が市内移動中にバッテリーがなくなった時に立ち寄れる救済措置としての用意であるため、普通充電を前提にしている。急速充電で一気に充電したい方へは、民間の事業者が商売で行うことが望ましいと思っている。

デメリットを伝えることについて、デメリットを伝えて終わることはせず、デメリットを課題という言葉に置き換えて、その解決策を提示してこそ環境啓発であると考えている。デメリットだけ伝えることは本来の環境政策と逆行し、行政としてやるべきではない。

例えば委員ご懸念の電欠対策についても、電気自動車についての実証実験を重ねているが、今は電気自動車につなぐことのできるポータブル電源があり、車が止まっても近くの充電設備まで動かせるだけの電力を供給できる。デメリットで終わらず、環境啓発としてその課題を解決する方法を提示していきたい。

【委員】

設置場所6箇所とは具体的にどこか。

【会長】

設置場所については後ほど事務局に問合せ願う。

先ほどのごみ処理についてもだが、私たちが使う道具やインフラは時代とともに変化し、私たちあるいは社会全体がそれを上手に使いこなす必要があり難しい問題である。計画は出されるが、地域の生活の中でそれをどのように活用していくかが大事であることを象徴するような質疑であった。

【委員】

特定外来生物対策について、私は前回の審議会を通してクビアカツヤカミキリが実際に中央公園にいることや、見つけたらすぐに踏み潰さなければならないことを知っていたが、最近、家庭菜園で長い間野菜や木を育てている人がクビアカツヤカミキリを見つけて、初めてそれがクビアカツヤカミキリであること、処置方法を知ったそうである。大事なことなので、市民への情報提供をもっと広くしていただきたい。

【事務局】

今年度、ホームページや広報きしわだへの掲載や、啓発のチラシやラミネートを市内各所に掲示した。様々な場面で訴えかけてはいるが、印象に残らず、聞いたことはある程度にとどまっている。我々の持っているメディアはかなり使っているが、行動に移さねば意味がないため、予算が確定すれば、市販のクビアカツヤカミキリ用の殺虫剤を市民に直接配布する予定である。パッケージに書かれているクビアカツヤカミキリの姿、それを使ってすぐに駆除できるというような訴求する力を使い、これで知ってください、これで殺してくださいということをやっていると考えている。

【委員】

いつもホームページと言われるが、市のホームページは見にくい。お金はかかるが、テレビ岸和田を利用するなど、効果を上げるよりよいものを考えていただきたい。

【事務局】

行政のホームページは世の中で一番楽しくないホームページと言われる。正直私自身も面白くないと思っており、なるべく画像を使ったり、ゲーム感覚で現場の写真を撮って手軽に位置情報も一緒に送れるような仕組みを作ったり、様々な工夫をしている。

テレビ岸和田の放送は既にしている。確実に広くみなさまに見ていただくためには、コスト面で限界があるため、次の手を考えているところである。

【委員】

環境計画について、環境アセスメントの現場で事業をする時に、環境計画に書かれていることを根拠に行うという意味では、かなり大事なものである。環境計画は通常 10 年で、改定は 5 年で行うが、今回の改定はメジャーアップデートの 10 年の方か、5 年経ってのマイナーアップデートの方か。

【事務局】

10 年の改定の方で、5 年前のマイナーの改定は行われていない。

【委員】

ということは、今回大幅アップデートになるか。総書き換えに近いのか。

【事務局】

流れや構成は元のものに合わせているが、今作業を進めている中で内容がかなり書き換わっている。

【委員】

資料 1 の KPI（重要業績評価指標）を見ても、オールドファッションと言いますか時代からずれているところも見えて、このあたりの審議を尽くさないとこのまま出てしまいそうな気がする。この後

の予定としては書面開催での審議となるか。

【事務局】

現時点ではまだ改定しきれておらず、できれば今年度中か年度明け早々に委員のみなさまに見ていただけるよう努める。

【委員】

承知した。このKPIは今回限りであり、改定されたものについての審議が来年度に行われるという理解でよろしいか。

【事務局】

そのとおりである。

【委員】

特定外来生物関係のことで3点聞きたい。

1点目に、市民からの情報を募集するというので、昨年度クビアカツヤカミキリの駆除フォームが作られたが、どのくらい機能しているか今の状況を教えてほしい。

【事務局】

市民と職員が使っているが、ほとんどが職員からの報告で、市民からは4件ぐらいである。

【委員】

先ほどの委員のご指摘のように、もう少し普及が必要である。

2点目に、特定外来生物の対策は広域的な取組も必要だが、大阪府との連携や、どれぐらいサポートが得られているかなど、何かあれば教えてほしい。

【事務局】

クビアカツヤカミキリに関して、大阪府からは様々な資料が提供されるが、言葉を選ばずに言うと、市町村任せとを感じる。クビアカツヤカミキリが幹線道路沿いに広がっていくということは、高速道路、国道、府道でトラックに乗って運ばれ、遠いところで落ちるのではないかとされているが、岸和田市内の現地を見る限り、国道沿いの街路樹や中央分離帯で対策は行われていない。

先日行われた大阪府の説明会の際でも、大阪府所管の、特に道路での駆除対策について質問したが、予算の優先順位が低く、対策が進んでないということであった。高速道路、国道、府道での水際対策に注力するよう要望しているところである。

【委員】

3点目に、クビアカツヤカミキリやアルゼンチンアリ以外にも岸和田市内には様々な特定外来生物があり、私が関わっているオオバナミズキンバイなどの植物もそうだが、優先順位付けは人への影響が大きいものからということになっていると思われる。対策対応の職員が2名のみでおそらく今も余裕がないと思うが、他に対策を広げる予定や検討していることがあれば聞きたい。

【事務局】

環境保全課で条件付特定外来生物であるアカミミガメとアメリカザリガニへの対応を行うことにした。昨年の夏、市民が捕まえたアカミミガメを処分してほしいと環境事務所の普段はごみの収集をしている部署である廃棄物対策課に持ち込みがあり、対応に困ったことがあった。これにより、特定外来生物対応業務として、環境保全課が市民の捕獲したアカミミガメやアメリカザリガニを受け入れる体制を作った。冷凍により殺処分する予定で、予算獲得に向けて調整中である。

(3) その他

(【資料4】里山まつりチラシ)

【事務局】

きしわだ里山まつりについて、3月8日(日曜日)に開催される。従来のイベントから少し趣が変わり、会場を愛彩ランドと神於山の2拠点に設け、その間を移動してもらい、ちょっとしたハイキングで自然になじんでもらうという内容である。よろしければご参加いただきたい。

【会長】

この2拠点はどちらに集まってもよいか。

【事務局】

できれば神於山に入っていただきたい。まずは立ち寄りやすい愛彩ランドから、神於山に行ってくださいと思う。

【委員】

事務局から紹介があったが、愛彩ランドには有名なレストランなどがあり、必然的に人が集まる。今回は里山としてのシンボリックな神於山に来ていただきたいと思い、スタンプラリーを開催する。出発は愛彩ランドだが、あとのスタンプは神於山の山中にある。最後に大阪府漁業協同組合連合会の協力でご褒美があるという仕掛けを作っているので、ご家族やお孫さんなどを連れてぜひともお越しいただきたい。チラシが受付にあるので、持って帰って配布していただきたい。

【会長】

ぜひともお越しくださいとのことですので、ご都合がございましたらよろしく申し上げます。

精力的なご意見等いただき、ありがとうございました。

次第を尽くしたので、以上で令和7年度第2回の岸和田市環境審議会を閉会する。議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

3. 閉会

以上